

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター冬季号〈第42号〉(平成11年12月15日発行)

巻頭言

私にとっての20世紀

九州技術士センター副会長 箴 島 昇 (建設・大分)

今世紀もあと1年足らずになってきた。明治、大正、昭和、平成と年号が変わり、歴史的にも激動の世紀であった。戦争を体験し、その後の復興、そして、めざましい高度成長にともなって、科学技術もすばらしい発展をとげた時代であった。

私にとっての技術的範囲で20世紀を振り返ってみることにした。

昭和30年代は鉛筆の芯の削り方を平芯、丸芯と使い分けて製図をしていたのが、その後シャープ式の鉛筆が使用されるようになった。今や、高級ハイテク万能製図器とも言えるCADの時代になった。製図板、T定規、ドラフター等の道具は姿を消してしまいつつある。

計算尺も物置の隅にかくれ、タイガー計算機も見かけなくなり、多機能の付いた電卓に変わってしまった。最近では、技術者各自が電卓の他にパソコンを使用するようになってきた。パソコンとの最初の出逢いは、一般のテレビをディスプレイとして使うもので、画面に写る数字や文字は、ぼやけ、大人のおもちゃというものであったと記憶している。

ベーシックでプログラムをつくり満足する動きをした時の喜びはひとしおであったことを思い出す。パソコンのライフサイクルは短く、次々に新しいものが欲しくなったものである。

初期の本格電算では数値の羅列で印刷されていたが、表計算ソフトの開発により、手書きの設計計算書と全く同じように、説明文のついた書類を簡単に作成でき、チェック及び照査がやりやすくなってきた。

コンピューターも多様化して、デスクトップ型、ノートパソコン等各種のものが出回っている。また、計算だけにとどまらず、ワープロ機能は当然のことで、通信方面への展開も著しいものがある。

インターネットにより全世界範囲で即時に文書が送受信できるし、写真等を添付することも可能であり、仕事のツールとして威力を発揮している。

携帯電話等は、21世紀には、現在では予測することが難しい程の機能が付加されることは確かであり、すでに、インターネットとの直結、映像の受信等は実用化されている。

銀行との取引、自動販売機、切符の購入等も携帯電話を通じて行われ、紙幣、硬貨等を媒体とする方法が変わり、世の中のシステムが大きく変化するであろう。

技術士の業務のやり方も21世紀では、電子機器を駆使することにより、在宅技術士事務所でグローバルな活動ができるようになるものと思っている。

そのためには、私どもは時代の流れを的確に把握し、科学技術の進歩にそっていく努力が必要である。

(東亜コンサルタントKK専務取締役)

雑 感

支部事業委員長 恒松 道信（建設・福岡）

福岡は西の郊外、天孫降臨神話にも出てくる、筑紫の国は日向（峠）の近くに住んでいる。11月にはいったとはいえ、今年は温かい。紅葉も例年より遅い感じだ。

この時期のタラの木は、誰からもお呼びでなく、また、自ら目立とうとしない。御承知のように、春、棘だらけの幹の先端から、冬芽のコートを脱ぎ、ヒスイの如き新芽を覗かせた時、山菜の王者の名にふさわしく、人の目を引きつけてやまない。以前から新芽の味は、ウドに似ていると思っていたが、最近になって、ウドのことを、ツチタラとも呼ばれていることを知り、両者の風味の共通性は、古来から知られていたことを知った。

北国では、山菜の時期になると、釣棒でタラの芽かきが行われ、春の風物詩の感がある。山里で育った私など、誰に教わったわけでないが、バットのような棒切れ一本で、新芽を手に入れていた。卑怯なやり方かも知れないが、やおら幹に近づき、棒で一撃を加えると、一瞬むち打ち状態になって、いとも簡単に新芽だけをポトリと落す。ただし、最初の一撃が弱かったり、当り損ねたら、新芽を得ることは諦めねばならない。自然の妙と言うべきか、生き物のように、反射神経が働き、コンマ数秒で自衛態勢にはいる。こうなったら、身構えて二撃三撃に執拗に耐え、なかなか新芽を落さない。タラの木も、善良な人間同様、不意打ちに弱い習性を持っているのだ。

話のついでに、今年、不思議な木に出会った。樹木図鑑等で調べたが、樹名は不明である。妻の実家にはえていて、葉の付け根に1センチほどの細い棘をもつ、常緑・広葉樹の喬木で、幹周りも20センチ位に成長しており、菜園に日陰をつくり、邪魔になっていた。昨年春頃、立木のまゝ枯らすつもりで根元の周囲を鉋で切り込みを入れていた。今年の夏、驚いたことには、肝を冷す姿に変身していた。何の変哲もなかった幹全体に、長さ3センチから10センチ位の千枚通しみたいな棘がビッシリとはえていた。なかには、棘自体にも数本の棘を持っているものもある。この木に意思があるような、明らかに傷つけた

敵への威嚇と自衛措置と思われる。

これまで、樹霊と呼ばれる巨木や老木に、畏敬の念を持ったことはあるが、このような、震撼した経験は初めてだ。この名知らずの木は、タラの木と違って、俊敏な行動はとらなかったが、危害を受けた事実を認識し、記憶し、時間をかけて自己防禦態勢に変身したと思えてならない。いやいや、もしかすると、タラの木も、元来棘など無かったのかも知れない。美味な新芽をもつが故、外敵に狙われ易く、種の保存のため、長時間かけて、棘をもつ種に固定したのかも知れない。

脇道にそれ過ぎて申し訳ありません。私も、昨今の今頃、まさに一瞬の隙を突かれたタラの木同然の心理状態に遭遇しました。いさぎよく会社を辞める決意をし、三月に退社しました。人の情は有難いもので、四月には、現在の会社にお世話戴き、新たな門出を期した頃、技術士会の手伝い話があり、身の程も知らず、お引き受けした次第です。

これまで、技術士会の活動については、傍観するばかりであったし、その疎遠がたたって、皆様へ御迷惑をおかけしている有様です。もともと、企業内技術士の立場での、本業と公益活動の両立には、厳しい見方があります。最近の不況下にあっては、本業に専念すべきという圧力が増々、強くなります。幸い私の場合、所属会社の理解と協力を戴き、微力ながら技術士会活動にお手伝いできることを、感謝しています。

九月には、会員として初めて、中国三峡ダム視察団に参加し、会員の皆様と行動を共にしたが、中国政府機関との友好、親善、技術交流を通して、技術士会の存在を実感することができました。実に有意義な中国訪問であったと思います。このような意義ある企画をされ、チャンスを与えて下さった清水先生はじめ会員諸氏に厚くお礼を申し上げます。

事業担当としての当面の初仕事は、12月1日の「交流を考える」セミナー開催に向けての準備です。不慣れの為、帆足副支部長の陣頭指揮を仰ぎつつ、動いています。皆様の御支援を得て、是非成功させたいと願っています。

中国三峡ダム現地研修見学会

第二部会長 清水 博和（建設・福岡）

平成11年度の九州支部の最大のイベントとして企画された中国三峡ダム現地研修見学会は、本年9月27日から10月4日までの7泊8日の日程のAコース28名、9月27日から10月1日の4泊5日の日程のBコース10名の、合計38名の多数の参加者で、無事に終了した。

各部門毎の内訳は、建設部門24名、機械部門2名、電気電子部門2名、経営工学部門2名、水道部門2名、化学部門1名、ご夫人5名の、総勢38名である。

東京本部からも1名の参加者があった。

構成員の平均年齢が、高かったのも、5名のご夫人の参加は、企画担当幹事としては、頼りになる支援者として、大変心強く有難かった。

日程は、A班・B班とも、9月27日福岡空港発13時45分で上海へ、上海空港乗り継ぎ、武漢着17時55分。武漢市政府の歓迎宴（東方大酒店）に出席し、殷増涛副市長の歓迎を受ける。

28日は貸切バスで宜昌・三峡へ。午後から葛洲ダム（三峡ダムのテスト現場）の見学。18時30分から、訪中団の答礼宴（三峡ホテル）

29日午前中は、三峡ダム現地研修、熱心に見学する。午後は三峡ダム建設に関するレクチャー。中国側講師、赫文平氏外3名、熱心な質問や答弁を受けた。規模の雄大なことと、永年に渉る研究と、国の総力を挙げての、一大プロジェクトの推進は、驚くばかりであった。

18時30分から、講師の方を交えて、懇談交流。

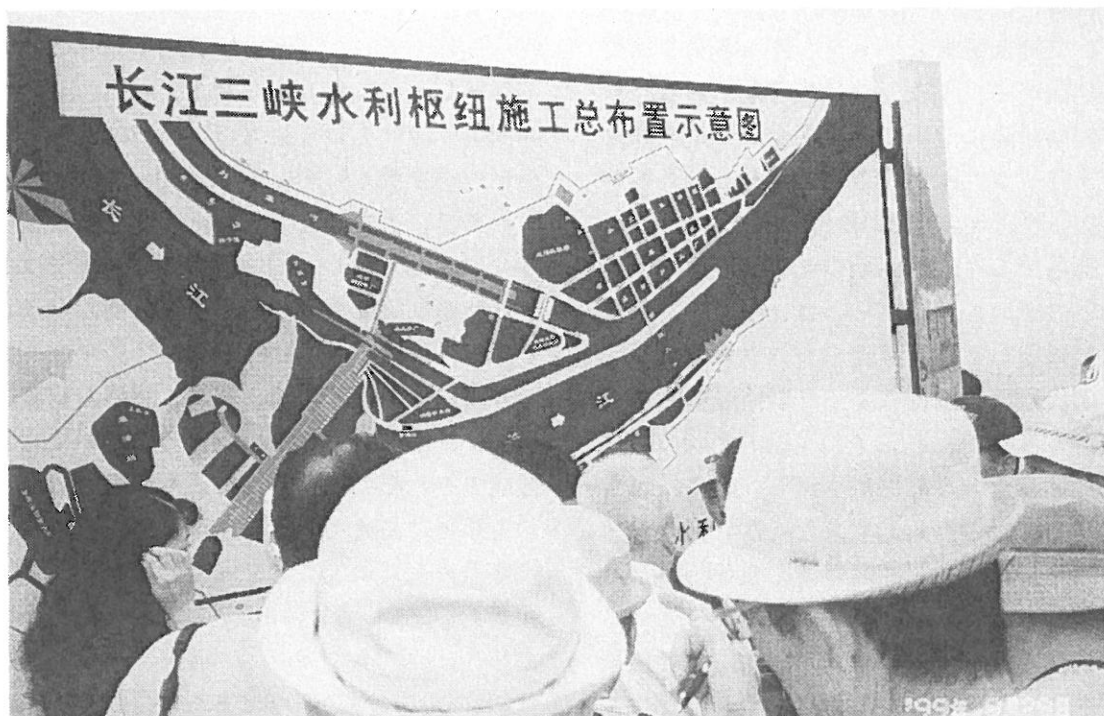
その後2班に分れ、早期帰国のB班は、武漢で一泊。30日は武漢観光後、空路上海へ。上海市内観光後、上海泊（華亭賓館）

10月1日、空路上海発、福岡空港に12:45着。無事帰国した。

A班は29日夜、長江の観光船に乗り船中泊。9月30日、三峡の峡谷を遡上する。

10月1日、新中国誕生50周年の国慶節に当り、船長の招宴のパーティーがあり、カラオケ・ダンスで大いに盛り上げる。

10月2日、白帝城を過ぎ、豊都市にて下船し、豊都市の、閻魔大王のお寺に参拝。大王の美しいお嫁



さんに手を合せ、来世の極楽行きをお願いした。午後は、船上で三峡ダム研修の反省会と勉強会を、メールの翻訳訳文を基に復習し、更に、三峡関係の、漢詩の勉強会を、川崎支部長、田中穰治先生、金光英雄先生の指導により熱心に行った。夜中に重慶着。

10月3日、重慶市内の観光、丘陵地の斜面の工場群と、4000年の古代の遺物等を博物館で見学。重慶空港から上海空港15:10分着。上海市内観光、買物の後、夕食は、海上レストランで、上海ガニの試食

後、華亭賓館泊。

10月4日、東方航空571便で、10:15分上海空港発、12:45分全員無事に福岡空港に着陸、帰国することができた。参加者から大変勉強になったと感謝された。

つぎに、第2部会「市営地下鉄見学研修会」を平成12年1月18日(火)午後福岡市中央区六本松附近の工事現場で開催する。作業衣の服装で多数参加されたい。

中国三峡ダム現地研修見学会を終って

視察団長 川崎 迪一(九州支部長)

(社)日本技術士会九州支部の平成11年度最大のイベントの一つである「三峡ダム現地研修会」ならびに引続いて行った「長江・三峡上り」については、中国政府当局を始めとして、関係者の多大なご支援とご協力により無事に終了し、満足すべき成果をあげることができました。ここに関係各位に厚く御礼申し上げます。多数の参加者から「大へん有意義な催しで、予期した以上の内容で参加して良かったし、楽しい思い出ができた」とのお言葉を頂戴し、主催者としても嬉しい限りです。何年か先(5~10年)の竣工した時点に、もう一度行ってみたいものです。とくに若い人にはその可能性があるので是非、行って見て下さい。

今回の企画は、昨年、中国領事館をはじめ中国関係に親密な、交流と情報ルートをお持ちの第2部会長の清水博和氏から、現在工事の最盛期にある三峡ダムの現地視察研修について、中国側から熱烈歓迎の可能性がありそうだということで提案されたものです。何しろ三峡ダムは桁違いの世界の巨大プロジェクトとして有名であり、最盛期の工事現場は是非みておきたいとの思い入れ、さらには、中国は古来より漢字をはじめとして日本文化のルーツであったこと、最近では開放政策の推進によって経済発展も目覚ましいものがあるようで、アジアの大国・中国の現状をつぶさに見てみたいとの思いもあり、さらには今後の日中友好の推進のためにもまたとない良い交流の機会だということで、平成11年度の支部行事として計画決定したものであります。

出発前に視察団幹事長の清水氏が、中国語の技術資料を翻訳されておいて、ある程度の予備知識はあ

る積りで現地におもむきましたが、広大な現場には100本もあろうかと思われるタワークレーン、コンベアが縦横に設置されており、あちこちに工場みたいなものが多数あり、大型のダンプが豆粒のように動いて見えるが人影が全く見えない。あまりにも現場が巨大で、ダムの全体像を一望にすることができませんでした。後で開催された交流会において当方の質問が「群盲象をなでる」の感があったのもやむを得ないものがあつたと云えます。唯々、このような巨大プロジェクトを、将来の経済の発展と国民生活の向上等のために国家の総力をあげて実施されていることに感嘆するばかりでした。

眼前には長江が茶褐色の泥水状でとうとうとして流れており、私が若い頃関門国道トンネルの現場で何時も眺めていた関門海峡の潮の流れと色は違うが二重写しになったのには驚きました。その時、長江の締切り流転工こそ最大の技術的課題ではなかろうかとの感を深くしました。このようなビッグプロジェクトでは、工事の進行と平行して解決しなければならない課題も多く、関係者のご労苦が偲べれます。ただ無事に完成されることを祈念申し上げる次第です。

今回の研修旅行では、武漢、宜昌、重慶、上海を訪問し、中国の現状を垣間見ることができました。各地でそれぞれの特質はあるものの開放政策が成功して活気に充ちており、丁度、新中国成立50周年の国慶節の祝賀週間にあたったこともあって、人々は和気あいあい、顔色は希望に輝いている印象を受けました。

おわりに今回の研修にあたり(財)福岡県人材技術経

済交流協会の吉田修一理事には、企画段階からのお世話になり、全行程にわたり行を共にして中国当局の関係者との交渉のほか、細かいところまで行き届いたお世話を頂き厚く感謝申し上げます。

また、幹事長をお願いした清水第2部会長には、実質の責任者として企画段階からの事前調査、実施

はもちろん帰国後の整理とり纏めまで、すべてを取仕切って頂いており、今回の成果は全面的に全氏のご尽力の賜物であり厚く御礼申し上げます。

最後に今回の研修旅行に関係された各位のご支援ご協力に感謝するとともに、ご健勝を祈念して日中友好がさらに推進されることを強く希望いたします。

行事会合報告

海外技術支援業務に関する講演会

支部業務開発委員会 松尾 憲一（建設・福岡）

1. はじめに

どうすれば技術士業務の拡大ができるかという課題を追求し具体化するため、九州支部では平成10年5月から業務開発委員会が発足した。その一郭に海外技術支援業務がある。先ず情報を集めないと、その実態が掴めない。本年7月末、本部で開かれた海外業務促進委員会に出席した。これで分かったことは、殆どの情報は東京に集中していること及び現在、海外支援体制が大きく変わりつつあるということだ。インターネットで世界は狭くなりつつある時に、九州では情報が断絶しているように感じられた。

このような動機で、九州支部主催の海外技術支援業務に関する講演会を開催したので、その要旨を報告する。

2. 講演会

日時：平成11年8月28日（土）午後2時～5時
場所：福岡市吉塚・福岡市中小企業振興センター
演題・講師名：

①新しい海外協力の流れと技術士の役割

社団法人 日本技術士会 理事 長友正治氏

②JICA事業をとりまく最近の動き

国際協力事業団九州国際センター

所長 中垣長睦氏

当日は折悪しくJR鹿児島線の脱線事故があり、交通まひを起こした中で、67名の方々に参加して頂いた。

長友理事のご講演では、現在ODAの参加人員の内、技術士は約3割のメンバーを占め活躍している。

今後ともますますのご活躍を期待したい。ここにきて日本の財政危機によるODA予算の圧縮があり、国民参加型の援助の方向に変革されつつある。個人技術士の新しいジャンルが開かれようとしている。として、国際協力諸機関と専門家登録のお話があった。

中垣氏のご講演は、わが国のODAの基本的考え方は人道的支援・相互依存・環境改善にあり、アジア重点ながら世界全般にバランス良く実施している。これに対し欧米では国益優先で支援国がかたよっている。これからの日本は国益を考える必要があり、ODA予算の1割圧縮による質的改革の内容について、具体的数字をあげてわかり易く説明された。国際協力のコーディネータとして活躍するJICA職員を描いたビデオは理解し易く好評であった。最後に個人コンサルタント登録について詳しい資料をもとに内容説明があった。

3. まとめ

九州支部としては、初めてこの種の講演会を開催した。わが国の海外技術支援施策への参加は、技術士の責務のひとつと言えるのではないだろうか。

組織的対応をはかり、東京集中情報を吸収整理し、会員諸氏にとって見通しの良い参加ルートを構築するように努める所存である。そして、できるだけ早く更なる具体的成功例を積み重ねるようにしたいものだ。

最後に両講師、参加頂いた会員諸氏、講演会開催の関係者に深く感謝する。

国際協力業務へ技術士登用の窓口

前掲の講演会報告にあるように、九州支部では、遅まきながら海外への窓口を開こうとしている。長友講師からのお話にもあった通り、本部の海外業務促進委員会では、海外での仕事を望む会員の皆様のために、昨年度第一次登録者をつのり400名、今年度第二次登録者をつのり5割増しの600名を総括名簿にまとめた。これを和文版・英文版にして、外務省・国際協力事業団・国際協力銀行・海外貿易開発協会等に配布したところ、大変大きな反響があったそうである。首題のように、国際協力業務への技術士登用の動きが出始めており、皆様にご紹介したい。

行政改革を機に官公庁・国際機関等では、技術士を新制度運用のための要員として位置づけた動きが見え始めた。

1) 国際協力事業団 (JICA)

①技術協力専門家公募 (平成10年から年2回)

技術協力専門家を公募しているが、より実効をあげるために日本技術士会の組織的協力を期待する。(JICA問い合わせ先：人材確保推進室：TEL 03-3269-3203)

②個人コンサルタント登録 (平成11年度から)

個人技術士の登録を期待している。登録は4、7、10、1月の4回。(JICA問い合わせ先：調達部：TEL 03-5352-5210)

③調査、審査、試験委員等の補完業務

工事監査、図書審査、試験委員等で専門性、公明性の高い技術士に期待している。

2) 国際協力銀行 (9月30日まではOECF)

特別円借款等での技術監査への協力が求められている。(TEL03-3215-1420)

3) (財)日本国際協力システム (JICS)

JICAの技術協力、無償資金協力に必要な専門調査員として協力を求められている。

(TEL 03-5352-5900)

4) (財)国際開発センター (IDCJ)

外部専門家としての登用を予定している。

(TEL 03-3630-6911)

5) その他の機関

日本技術士会海外業務促進委員会作成の「海外専門家派遣機関ガイド」を参照されたい。

上記問い合わせ先：

日本技術士会九州支部 (TEL 092-432-4441)

松尾 憲一 (TEL 092-841-1794)

第26回 (社)日本技術士会全国大会に参加して

第四部会長 平 信雄 (水道・福岡)

平成11年10月20日、第26回の日本技術士会全国大会に出席した。当日は快晴で約500名の出席者で盛大に行われた。九州支部からは、同伴者を入れて25名の参加であった。

10月20日9時受付、10時に分科会が開始された。

第1分科会：環境 (人類と地球環境との良きかゝわりを築く)

第2分科会：福祉 (福祉社会に貢献する技術)

第3分科会：情報 (高度情報化の進展を考える)

第4分科会：地域 (個性ある社会・文化を育むために)

分科会は昼食を挟み14時まで熱心な発表が行われ、引続き分科会報告があり15時に終了した。

その後の記念式典では、大会委員長、日本技術士会中四国支部長の森正義氏より歓迎の言葉があり、梅田会長の式辞に続いて、国務大臣中曾根弘文科学

技術庁長官並びに、国、県、市関係の祝辞があった。

特に印象にのこったのは、長官の祝辞である。

“21世紀を目前に控えて、我が国は厳しい経済状況を脱すべく、科学技術の振興に力を注ぎ、技術革新による産業フロンティア創出と、産業の国際競争力強化を図り、活力と創造性にあふれた社会の構築を目指すべきものだとの考えから、技術士制度の充実、強化に尽力する所存”との力強い挨拶に、我々としては意を強くした次第である。

次いで16時から1時間半、岡山市立オリエント美術館長市川俊介氏の「岡山桃太郎」という記念講演があり、吉備津神社社記にある吉備津彦命の温羅鬼退治の神話、桃太郎伝説、吉備団子の話、桃の生産地と桃太郎、お供の三匹の申(猿)酉(鳥)戌(犬)の話など、つかれがとれる実にユニークな講演であった。

18時からの懇親パーティーには、500名を越す会員とその同伴皆様が参加して、御当地岡山の郷土芸能の「備中神楽」が披露され、大いに盛り上がり、次期開催地の紹介と挨拶の後、盛会裏に幕を閉じた。

翌21日、早朝8時半にロイヤルホテル前に集り、A B C Dの4コースに分れて研修旅行に出発した。私は他の九州勢とともに7名で、Aの倉敷コースに参加した。

見どころは、吉備高原テクノポリス林原生物化学研究所吉備製薬工場。緑に囲まれたすばらしい環境の中に、人の気配も感じられぬ程の静かな工場で、大変印象深かった。製造されている薬品は、従来のような化学合成品主体ではなく、バイオテクニクによるものである。薬害や副作用のない、人間が本来備えている抵抗力、自然治癒力を利用した、「人

間から始る」「生命から考える」ことを原点とし、抗ガン剤インターフェロンや、ブラジル蜂の巣が原料であるプロポリスなど、多くの薬品、化粧品が開発されている。ハムスターを飼育し、これに人のDNAを合体させる新しい方法にとり組んで成功している。

吉備の豊かな自然に囲まれた工場を後にして、倉敷の新しい行楽地として登場した「倉敷チボリ公園」で昼食の後、ロマンあふれる倉敷川畔の「美観地区」を散策した。堀割り、柳並木、川面に映える白壁と貼り瓦、江戸時代幕府直轄の天領地倉敷は、この河畔を中心に物資の集散地として栄えた。大原美術館はつとに有名であるが以前3回程来ているので、私は今回は割愛した。



気楽に原稿をお送り下さい

「技術士の声」原稿募集

「技術士だより」から、みさんの気持ちが溢れて、生きいきした息吹きがほとぼしるようにしたいと思います。それでなんでも結構ですから、原稿をお送りください。例えば、

①なぜ技術士になったのか。

②技術士になって判ったこと（よかった点、不足に思うこと etc.）

③技術士としてこんな仕事をやりとげた。

④いま、仕事のうえで悩んでいること。

⑤技術士の組織に望むこと。

その他にもいろいろあると思います。気軽にお気持ちを書いてみてください。800～900字程度。送り先は事務局。FAX (092) 432-4442です。

第29回日韓技術士合同 SYMPOSIUM

支部顧問 水上 信照（建設・福岡）

第29回日韓技術士合同会議が、去る10月29日、韓国釜山広域市（ロッテホテル・プサン）で開催された。

出席者総数278名で、内訳は、韓国側183名（婦人同伴31名）、日本側95名（本部、他支部69名、九州支部26名、内婦人同伴15名）であった。

特に、第30回日韓技術士会議は、九州支部が担当する事が決定しているため、（平成12年11月16日（木）、於福岡市）山口一弘実行小委員会委員長を団長として、多数の参加者があり、下掲写真のように、九州支部参加者全員が壇上に並び、横断幕を前にして、福岡での再会をハングルにて呼びかけ、万雷の拍手を浴びた。

当会議は、昭和46年、両国技術士の懇親を深め、情報の交流を促進する目的で、第1回技術士会議が、ソウル特別市で開催され、以来、東京とソウルで交互に開催された。平成4年より地方都市に移り、

日本側……22回新潟市、24回札幌市、26回松江市、
28回千葉市、

韓国側……23回大田市、25回慶州市、27回牙山市、
29回釜山市、

で開催されているものである。九州支部は、第23回より参加している。同会議の実質的運営は、日韓双方にある「日韓産業構造調査研究委員会」が当り、開催地の実行小委員会が対応している。

今回のテーマは、両国技術士会で合同調査が進んでいる「東北アジアの現況と将来」であった。

10月29日、金命年韓国技術士会長、日本技術士会梅田昌郎会長の挨拶、基調報告は、李康鎬（副会長）本田尚士氏、主題発表は、中山輝也（副会長）韓国側2名であった。

午後の分科会に続き、晚餐宴会があり、安相英釜山市長（技術士）、瀬島龍三顧問の祝辞、山口委員長による来年の福岡における大会への参加勧誘を行った。

10月30日の見学会は、釜山より大型フェリーにて、巨済島に渡り、三星重工業造船所、捕虜収容所（1950年、北朝鮮軍15万人、中共軍2万人の捕虜収容施設の復元）海金剛の海上観光であった。夕食は焼肉専門店、焼酎、マッカリ酒で、韓国料理を満喫した。

10月31日、龍頭公園のタワーより釜山市を展望、国際市場、魚市場、凡魚寺参りの後、釜山港よりカーフェリー、カメラにて、楽しい船中談話に花が咲いた。

今回の行事参加では、来年開催地の福岡市の観光ガイドをスライドにより紹介、晚餐宴会にて、山口団長より、ハングルにて大会参加勧誘が出来た事は、非常に有意義であった。又印象的だったのは、正装した両国婦人連の「釜山港へ帰れ」の大合唱（両国語）、又帰路の地下鉄車内での、若者達の老人への心遣い、凡魚寺での御堂内の敬けんな信者達の姿等、韓国の人々の誠心にふれる思いであった。



来年福岡での再会をハングルで呼びかける福岡支部会員

部会報告

第四部会見学会

見学会を意見交換の場に

松田 研志 (水道・福岡)

1. はじめに

「見学会では、本音の話をしたいですね。」

これは、福岡市下水道局へ施設見学のお願いにいった時に、市の担当係長に伺った言葉です。

この言葉を聞いた時に、「技術士会の活動がそこまで認められているのか」という喜びと、相手の期待に応えられるだろうかという不安が同時に心をよぎりました。

とにかく参加者をたくさん集めようと思い、会員の方への案内と同時に電話勧誘を行いました。以下に見学会の概要をご説明します。

日 時：平成11年8月11日（水）13：30～17：00

見学施設：①福岡市東部水処理センター

高度処理実験施設（担体を用いた硝化促進型嫌気・無酸素・好気法）

②福岡県多々良川浄化センター

水稻栽培実験施設（下水処理水を用いた実験田における実証実験）

※福岡県、福岡市、粕屋町による共同研究

参加者：川崎支部長、平部会長以下21名

2. 高度処理実験

実験の概要（目的、方法、実験経過等）について説明を受けた後、施設見学を行い、その場で質疑応答を行いました。

(1)実験の目的

- ・福岡市の下水道に適合した技術的指標を確立する。
- ・実施施設の改造にあたり、適用するための設計・運転管理資料を作成する。
- ・2種類の硝化固定化担体（包括、結合）を用いて実験を行い、その処理機能を評価し選定する。

(2)目標水質（年間平均値）

T-N：9mg/l以下

T-P：0.4mg/l以下

COD：10mg/l以下

(3)実験経過

11年度に反応槽割を見直し、処理目標は達成でき

ている。

3. 水稻栽培実験

実験の概要（目的、方法、実験経過等）について説明を受けた後、圃場見学を行い、その場で質疑応答を行いました。

(1)実験の目的

本実験は、下水処理水を渇水時に有効利用するため、下水処理水をかんがい用水として利用した場合の水稲への影響を把握し、農業用水利用の可能性、方法等について検討するものである。

(1)実験方法

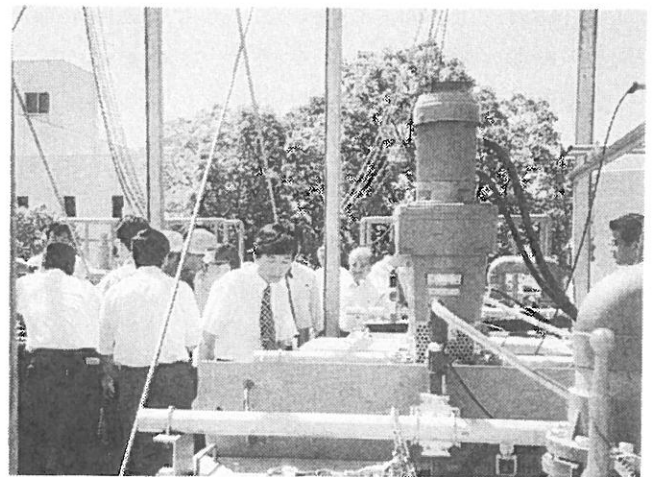
粕屋町と福岡県で若干実験方法が異なる。

粕屋町は、通常の処理水を用い、①処理水100%、②処理水50%、③在来用水を対比している。

福岡県は、高度処理を行い、①処理水100%、②在来用水を対比している。

(3)実験経過

平成10年度の実験結果は、処理水の利用により程



高度処理実験



水稻栽培実験

長の伸長や病害虫が多く発生する傾向がみられたが、倒伏はなく処理水の利用は収穫量の増加につながった。

4. おわりに

福岡市の担当係長が急用で出席できなくなり、冒頭の「本音の話」は実現しませんでした。しかし、従来の受身の見学会ではなく、「せっかく技術者が集まるのだからおおいに議論をしよう」という気運を強く感じました。

見学会に若い技術者が多数参加され、活発に意見交換されることを願いつつ見学会の報告とします。

施設見学を、快く引受けて下さいました福岡県下水道課、下水道公社、福岡市下水道局、粕屋町下水道課の皆様には心からお礼申し上げます。

第一部会研修会（平成11年度）

講演 2 題

第一部会長 山谷三郎（機械・福岡）

9月18日（土）毎年恒例の第一部会（機械・電気電子・船舶・航空部門）の研修会を、博多第一ホテル会議室にて、13時10分より開催致しました。参加者は18名で、遠くは長崎から武田先生の参加を得ました。

まずは約10分間、技術士会及び11月19日（金）の第一部会研修見学会行事予定等の連絡事項に続いて講演会に入りました。

第一番目は、題名「電気技術に関する問題設計施工基礎技術の事例研究」の表題にて技術士（電気電子部門）碓俊明先生の講演でした。所要時間は、13時20分より15時迄約1時間40分にて、その内容は、碓先生の体験された、貴重な大規模電気動力源に関する問題発生と、その原因究明、及び対策立案実施による解決法でした。

その中の2～3例を示しますと、

- ①資材購入の場合（この場合は鋼材定尺について）メーカーカタログ表示の内容と実際の製品上の差異誤差の問題です。やはり購入時に事前検査チェックを完全充分に実施し、設計長さと合致しているかを確認する必要があるとのことで、これにより単純重大なミスを防ぎ得るとのことでした。
- ②次の問題は、10m以上（巾×奥行）の架台メッキ鋼板を取付前に誤った穴明をしてあり、取付時発

見台数が多数台となった為、損失額が多額となった事であります。やはり初歩的な事ですが、設計時寸法との正合性を施工前に確認チェックして取付けるべきでありました。これもマニュアル或いは手順書により事前チェックを確実にすることにより、ミスを防げるということでした。要は規準を作り、如何にしてこれを遵守させるかにあります。

③第3に酸・アルカリ等溶解液に対する取扱い処理対策上、事前マニュアルに基づいて教育訓練の徹底を図る問題でありました。これもメーカー仕様書の解釈の仕方及び弁破裂後に薬液を浴びた人体への処理の仕方の問題でありました。

④第4は落雷、電撃上の問題で、これはやはりカタログ表示を盲信し、自己技術による事前点検チェック検査確認をしなかった事によるものでした。

その他数点、今後の事業教育にも通ずる先生の貴重な重要体験談であり、事業規模が大きい事例なこともあって、参加受講者を感動させました。

第二番目は、15時10分～16時50分にて題名「新機種開発ベンチャービジネス10年の軌跡と開発した《機械・油圧複合変速機》について」の表題で、技術士（機械部門）長友邦泰先生の講演でした。先生の機械・油圧複合変速機に関する個人技術士としての、文字通り研究発明開発に全精力を費しての10年間の、悪戦苦闘の連続の貴重な体験談でした。

現在は完成したトルクコンバータ型変速機が、カバーできない広域変速機として、超高圧（300kgf/cm²以上）又超高速型として、建設機械用高負荷トランスミッションを狙っての新規需要を創造開拓中とのことで、本機は国内自動車メーカーと共同特許出題の方式を採用し、日本特許・ドイツ特許及び米国特許を取得しているとの事です。その性能試験も予測値に近い能力値にて試作機を完成、油圧機械はDMM方式（Dual Mode Motor）と称し、低速域、高速域をカバー兼用でき、逆転機構も完備されています。

この10年の研究開発の期間には、先生自身の負傷事故もあり、今更研究開発の困難さと開発したときの喜びとについて、十分に参加者を魅了した講演でした。

研修会は17時に修了し、その後希望者にて、なごやかな雰囲気のもと、地下居酒屋「博多路」にて酒を含んでの会食となりました。

I

うれしいこと、心配なこと

竹内 良治（建設、水道、衛生工学・北九州）

小生、公務員生活のホームストレッチに入り、残り80mとなってしまいました。ご多分に漏れず人並に近視の度が段々弱くなり、物忘れの進み具合に驚くばかりです。しかし、8年前に技術士試験に合格して良かったとしみじみ身に沁み入ります。

まず、学ぶ楽しみをおぼえ、人並に本を読むようになったことです。私の読書歴について触れると、35歳まで零に近く、手に入る年間10枚程度の図書券を消化するくらいでした。15年ほど前に職場の若手の三国史CPゲームを取り上げ、土日、休日に一睡もせず、はまり込んでしまいました。

一年ほどでゲームを完璧にマスターすると、今度は小説の三国史を読んでみたくなりました。ところがこの若手は給料の一割以上を本につき込む読書家で三国史はもとより小説、思想、歴史、文学と私の読みたい本のほとんどを蔵書していました。興味深い本になると、水銀灯下の車中で徹夜で読み通すほどでした。この若手は私にとっての諸葛亮孔明です。

読書週間の新聞コラムに若年で読書をしていないとネイティブな読書力が身につかないとありましたが、これを実感させられました。徳川家康は三度も読み返しましたが、現在、頭にはほとんど残っておりません。ちょうど中途失明者の苦労のようです。

それでも懲りずに読書散歩を続けていますが、感動を与えてくれた著者が、その後、NHKの人間講座に登場し、さらに理解を深めるとともにちょっと先取りできたことに喜びを感じます。その先生方は安田喜憲（H6）、村上陽一郎（H9）、川勝平太（H11）先生などです。今後は桑子敏雄（JCCA No.199）、上山安敏先生の登場を期待しています。

さて、**心配なこと**に話題を転じます。近年、学力の低下が問題となっています。その典型を今回のJCO事故にみるができます。小生はこの事故を三峡ダム研修旅行の上海で午後11時に知りました。そして、昭和61年のチェルノブイリ事故の記憶がよみがえりました。

翌日、帰国してニュースをみると野中官房長官の一方的な記者発表で記者の方から何も質問が出ないことに驚きました。放射線量をシーベルト単位で一

くくりにし、やれ自然（年間）の何倍論で丸め込まれてしまいました。中性子が出てきたのは数日後でした。

ここで、高校物理をおさらいすると、

- ・ ^{235}U は自然に崩壊し、その時中性子を2個出す
- ・ ^{235}U が多量に存在すると、中性子が別の ^{235}U に当たり、核分裂を繰り返す（臨界）
- ・中性子は中性子爆弾でわかるように、市街地を壊さず、生物、細胞を殺す究極の兵器となる

この常識が、工場、原子力安全委員会、科学技術庁、政府、マスコミに欠落していたようです。

チェルノブイリ事故のときは、原子炉事故に起因する核種放射能を直ちに問題にしたが、今回の自宅避難について、中性子線はビルを貫通しても、木造住宅で減衰されるのでしょうか。わずか13年しか経っていないのに常識の低下に驚くばかりです。

このことは最先端の原子力技術だけではありません。二世紀目に入ったわが水道にも押し寄せています。平成8年、原水に濁度がないからといって凝集薬品を入れず、塩素で死滅しない原虫（クリプトスポリジウム）が水道水に混入しました。水源上流で患者が発生し、これから排泄された原虫が再び原水に混入し、一万人の町で八千人余の水便下痢患者を出しました。水道界ではこの対策として、浄水処理の基本である凝集、沈澱、ろ過を行えば、 10^{-3} 処理できることが確認されました。両者とも基本を忘れた事故です。

近代西洋科学は化石燃料を奴隷に夢の熱媒体、冷媒、エネルギーを造ってきましたが、その副作用で地球環境が危うくなってきました。その根源を前述の先生方が鋭く指摘されています。そこで、ここで紹介する余裕はありません。そこで、新寓話「群象象」象の外見が見える健常者は目の不自由な方を笑ったが、目の見えないことを自覚し、この手で触れた方が象の一部とはいえよく観たと思われます。私も手で象の温かさや鼓動を観たいものです。

科学万能の英知から自己の愚禿を自覚した叡智が次世紀のパラダイムとなれば、人類はなんとか地球に住まわせてもらえそうです。

II

技術士がめざすもの（無我無心の心）

熊本県技術士会会員 中野 正一（農業・熊本）

私はまだ技術士らしい仕事はしたことがないが、技術士会活動と会議や研修会、講演会などに参加させてもらっている。

趣味は、家庭菜園作り（30年以上）と山登りである。

最近では大好きな家庭菜園作りを忘れてやみくもに登っている。とは言ってもいわゆる中高年の登山というのを楽しんでいる段階である。

九州には百名山と言われる立派な山がイヤという程あり、個人での登山や団体での〇〇山縦走など、四季折々飽くことを知らないのが登山である。

団体での登山は、熊本の「自然を愛する会」の皆さんとご一緒させてもらっている。団体登山のルールは、リーダーを先頭に、副リーダーが末尾について、全員の安全を確認しながら集団で行動をする。従って慣れない初心者がおられる場合は、その方のスピードが全体のスピードを左右することも多くあるが、しかし登山は急ぐだけが能ではないようである。リーダーをはじめ大勢の中には、いろんな登山経験者、体験者の方がおられる。

中には年間100回以上登る人、あるいは日本アルプスや海外の5,000m以上の山にチャレンジした人、四国の八十八ヶ所を42日間で踏破した人などさまざまである。

今回はそんな方の話をまとめてみた。

その1 最近では森に異変が起きているように思う。九州の霧島山系には梢そびえる赤松が有名であるが、立ち枯れして白骨化している。その姿は目に余るものがある、不自然に枯れて行く姿は寿命だとは思えないと言う。

その2 多くの山で植生によって（たぶん人工植林の杉、檜林）表土が流出し、保水力が著しくなくなり、沢の水が年々減少しているような気がするとも言われる。

これらの原因は定かではないが、森は今悲鳴を上げているようだ。

その3 石鎚山に登る人々は昔から六根清浄と唱えて登った。眼、耳、鼻、舌、身、意を清浄にして六界、つまり見るもの、聞くもの、匂うもの、味わうもの、触れるもの、思うこと、に身心を汚さず、無我無心、空の状態になり険しい霊山へ登る。

この六根清浄の登山には遭難事故はない。諸法空相の山と、我を無にした空相とが一つにとけこむところ、山を拝み、己の心を拝む登山者には決して事故は生じないのである。

その4 この事を実証されたのが、「自然を愛する会」代表の阿南誠志氏である。

氏は平成11年2月にネパールのアイランドピーク（6,160m）の初登頂に成功された。氏は、日本での「人」「物」「車」のあふれる社会から、ネパールという比較的自然に近い国へきて、集落をすぎ高度をあげて人工で作ったものがすべてなくなった場所、標高5,400m、気温マイナス18度の岩場まできたとき、なにかしら自分の気持「心の中」も「無」になっていくようで不思議であった。

そんな気持ちで手も足も思うように動かない状態での集中力が、高度6,000mでの氷壁（斜度70度、高さ150m）を1歩1歩登ることができた、と帰朝報告された。

私達技術士集団は、各界の多様な技術を持つ集団であり、今社会問題となっている、たとえば産業廃棄物の最終処分場やダイオキシン問題などは、処理施設の位置選定にも大きな問題があるように思われて仕方がない。こんな例を示すまでもなく、社会の諸問題を無我無心の心をもって、自然との共生をテーマに自然に逆らわないやりかたを模索し、真の意味での自然にやさしい答えを社会に提示する努力をする必要があると思うのである。

およろこび

九州支部土居顧問が叙勲

（社）日本技術士会九州支部顧問（元支部長）の土居貞夫先生（衛生工学・北九州地区・土居工業㈱

代表取締役社長）は、平成11年11月3日に発表された秋の叙勲で、「勲五等瑞宝章」を受賞されました。先生のご功績を讃え、ここからお慶び申し上げます。

地域活動

福岡

YCE福岡の一年を振り返って

広報副委員長 棚町 修一（建設）

YCE福岡（Young Consulting Engineers 福岡）は、主に福岡地区に居住・勤務されている50歳までの技術士で構成している会で、発足から7年になります。

この会は、偶数月の第4水曜日に定例会を、奇数月に次回定例会のための運営委員会を開いています。現在、約90名の方々に御案内を差し上げ、25名前後の参加で、43回を数えました。

定例会は、弁当と小ビールを準備し、以下のスケジュールで進めています。

6：30～7：00 1分スピーチ（全員）

7：00～7：30 ノウフウ（自己紹介）

7：30～7：45 休憩

7：45～8：50 ホットな話題

8：50～9：00 連絡事項等

ホットな話題では、興味のあるテーマについて会員もしくは外部の方に講師を依頼してお話を伺っており、この一年に取り上げたテーマは次の通りです。

2月 「環境ホルモンに関して」松永雄二氏（会員）

4月 「消波護岸から発生する海水飛沫量とその低減工法」松永信博助教授（九州大学）

6月 「新都市計画図の導入について」渡辺孝司氏（会員）

9月 「埋立て粘土における置換工法を用いた地盤改良」今西肇氏（会員）

10月 「環境問題について」会員4名が話題提供者となり、みんなで意見交換

定例会終了後は、ノミネーションを企画しており、和やかな雰囲気の中で、いろんな話題に花を咲かせています。

この会の魅力は、同年代の技術士と語ることで悩みや考えを知ることができ、異分野の最新話題が聞けることではないかと思っています。

こうした積み重ねが10年、20年後には、大きな力になるものと信じています。

佐賀

技術立県をめざして

代表幹事 藤永 正弘（建設）

（社）日本技術士会九州支部佐賀地区は、佐賀県在住者の技術士で構成する佐賀県技術士会と連携を持ちながら、地域活動を行っています。

地区と県技術士会共催行事としては、11月に「技術懇話会」、3月に技術士二次試験願書配布説明会を行っています。

「技術懇話会」は例年、佐賀県内の若年技術者の資質向上と会員増強をベースに、その時々話題を折り込んだ講演会を実施しています。

昨年は環境をテーマとしましたが、本年は今夏落成しました「佐賀県宇宙科学館」の協力を得て、当館の施設見学を兼ねて、「帰化生物について」と「コンサルタント技術者の役割」の講演を11月27日に実施しました。

共に“技術者の物の見方・考え方”を眼点におき、広い視野で技術者の資質向上をめざしています。

佐賀県内の技術士の数はまだ約30名で、活発な活動に至っておりません。と同時に県内の建設関連業に所属する技術士の数も少なく、県内企業のコンサルタント的評価は低く、企業の活力は減退気味となっています。

技術立県をめざす佐賀地区は、県技術士会と共同で、あらゆる機会をとらえ、企業の活力と技術士活動の活性化に向けて努力しています。

したがって、県内の主として建設関連業の団体との関係を強くし、技術者の資質向上や技術士をはじめとする技術資格取得のための協力を行っています。

また、技術士会会員の地域とのかかわりとして「低平地研究会」の組織メンバーに多くの会員が参加して、個々に種々の活動を行うと共に、年一回の市民フォーラムの共催を行っています。本年は元国連事務次長明石康氏の講演とパネルディスカッションを、10月21日に実施しました。

大分

技術士制度の見直しの行方は？

広報委員 宮野 和幸（建設）

技術士資格の国際相互承認問題を契機に、技術士制度が見直されている。

概要は、「技術士資格の国際相互承認・年末成案か」（「技術士だより」平10. 9. 15矢野友厚氏）「技術士制度の見直し・改善の動きについて」（「技術士」平11. 8堀内純夫氏）「技術者も世界標準化」（「朝日新聞」平11. 6. 17記事）などにある。

これらの内容は、技術士資格を国際間で相互承認することとしているが、相互承認する場合、海外の「技術士相当の資格」（たとえばPE等）保有者と、数でバランスがとれるように「日本の技術士相当の資格」保有者の数を増やす、とある。たとえば、現在の技術士補の資格保有者がある程度の経験年数と知識を持った場合であるとか、RCCM資格と技術

士資格を一本化することが検討されているようだ。

確かに、技術士の数が少ないことが、社会的に認められにくいことの原因であるだろう。

しかし、インフレ的に技術士を増やして、いままでの技術士資格保有者と「インフレ技術士」を一緒にして、制度そのものが自ら、技術士の信用を失墜させてしまっているものだろうか。

新聞記事には、「技術士の取得条件を見直すことを6月末の科学技術庁の技術士審議会に報告する」とあり、技術士制度の見直しは着々と進んでいる。しかし、その後日本技術士会発行の「技術士」などに、この問題に関して記述は見かけない。

技術士にとって資格制度が改正されることは重大な関心事であるにも関わらず、話題にならないのはなぜだろうか。医師の団体のように世論の批判をあびてまで既得権益をまもるのは行き過ぎであるにしても、ある程度の権利擁護は認められよう。

どうして、技術士の間で、この問題が「話題」にならないのだろうか。積極的な議論を期待する。

鹿児島

技術士会青年部勉強会

広報委員 奥山 泰宏（建設）

平成11年度青年部活動方針の一環として、ワーキンググループ活動は、①勉強会として活動する②会員のフリートーキング形式で行う③テーマは「環境」とすることを決めて、第一回が開かれた。

会の名称：鹿児島県技術士会青年部勉強会

実施日時：平成11年10月9日15：30～17：30

実施場所：鹿児島市中央6-5

ステーションホテルニューカゴシマ

演 題：産業廃棄物による環境汚染とその対策について

講 師：鹿児島県環境学習アドバイザー

鹿児島大学理学部教授 坂元隼雄

参加者数：34名

演題の概要 私たちが豊かな生活スタイルを求めてきたために、様々な化学物質が生まれ、廃棄物を生み出している。このため、近年、これらによる身近な大気、河川、海洋などの環境汚染が重要な問

題となっている。

今後、環境問題の解決策として、企業サイドの新技術開発や、市民レベルにおける廃棄物（ゴミ）の減量化を推進するなど、地域全体で強力に取り組む必要がある。

受講者の感想・意見 近年、地球環境の保全が世界的な問題として、クローズアップされてきている。

現在、各分野の技術者で組織する当技術士会（青年部）では、「環境」は各分野に共通する重要なテーマとして、今後勉強していこうと考えている。

今回、最初の勉強会として、坂元先生を招いて、講義を受けたが、最近話題の東海村の原子力事故や、身近なゴミ問題、更に、これからの環境問題にどのように取り組むべきかなど、OHPを用いてわかりやすく説明していただき大変勉強になった。是非、今後の活動に生かしていきたいと考えている等が述べられ、次回（来年1月予定）資料として多くのアンケート調査表が提出された。

つぎに、平成11年10月には、鹿児島県技術士会機関誌『平成11年度版会員名簿』・『創立10周年記念技術士研究発表論文集』2200部を県内行政関係機関、業界等に配布した。

会員ニュース

☆社日本技術士会（九州支部）入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段：連絡先／下段：勤務先) 〈連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ〉	☎	FAX
福岡	正会員	有吉 隆弥	建設	〒818-1137 前原市南風台4-11-7 勤：西松建設(株)九州支店	☎(092)771-3124	FAX(092)771-8596
福岡	正会員	上林 武司	建設	〒816-0934 大野城市曙町2-1-18-602号 勤：西松建設(株)九州支店	☎(092)751-2269	FAX(092)751-2928
福岡	正会員	倉岡 豊	建設	〒816-0833 春日市紅葉ヶ丘東7-113 勤：西松建設(株)九州支店	☎(092)771-3124	FAX(092)771-8596
福岡	正会員	満下 直紀	建設	〒814-0002 福岡市早良区西新2-12-25 勤：西松建設(株)九州支店	☎(092)771-3121	FAX(092)752-4924
熊本	正会員	松本 章	建設	〒869-1102 熊本県菊池郡菊陽町原水1249-2 勤：西松建設(株)九州支店	☎(0986)64-3603	FAX(0986)64-3605
福岡	正会員	内田 克己	建設	〒819-0021 福岡市西区大町団地11-304 勤：西松建設(株)九州支店	☎(092)771-3124	FAX(092)882-3764
福岡	正会員	椋木 淳二	建設	〒816-0934 大野城市曙町2-1-18-304 勤：西松建設(株)九州支店	☎(092)771-3122	FAX(092)771-3129
福岡	正会員	安恒 万記	建設	〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-3-72-601 勤：(株)陽設計事務所	☎(092)752-0538	FAX(092)752-0539
長崎	正会員	森 一夫	水産	〒859-0401 長崎県西彼杵郡多良見町化屋名1-325 勤：復建調査設計(株)長崎支社	☎(095)845-2444	FAX(095)840-0964
福岡	正会員	松岡 生磨	農業	〒837-0905 大牟田市大字甘木1203-2 勤：内外エンジニアリング(株)	☎(092)431-2851	FAX(092)451-5027
北九州	正会員	沼田 晋一	建設	〒802-0816 北九州市小倉南区若園1-23-28 勤：西日本工業大学	☎(0930)23-1491	FAX(0930)24-7900
熊本	正会員	竹中 英和	農業	〒861-2234 熊本県上益城郡益城町古閑51-28 勤：アジアプランニング(株)	☎(096)372-6440	FAX(096)363-6809
鹿児島	正会員	奥山 康宏	建設	〒892-0861 鹿児島市東坂元2-61-2 勤：アイ技研(株)	☎(099)224-3999	FAX(099)224-2010
福岡	正会員	古賀 猷規	農業	〒830-0001 久留米市小森野4-51-1	☎(0942)37-2889	FAX(0942)37-2889
福岡	正会員	恒富 赳彦	応用理学	〒816-0972 大野城市平野台2-17-20 勤：(株)ジオテック技術士事務所	☎(092)476-1700	FAX(092)476-1701
長崎	正会員	松浦 恭千	建設	〒816-0911 大野城市大城1-1-8 勤：りんかい建設(株)長崎営業所	☎(095)826-6814	FAX(095)826-6821
熊本	正会員	柴田 浩史	建設	〒861-4133 熊本市島町1157 勤：(株)熊本建設コンサルタント	☎(096)367-4111	FAX(096)358-7115
福岡	正会員	江口 清貴	建設	〒818-0138 太宰府市吉松82-11 勤：(株)橋梁コンサルタント	☎(092)461-2011	FAX(092)461-2049
福岡	正会員	酒井 良	建設	〒811-2100 粕屋郡宇美町桜原1-31-21 勤：三井建設(株)九州支店	☎(092)282-1350	FAX(092)282-1361
北九州	正会員	花田 和美	機械	〒805-0048 北九州市八幡東区大蔵1-13-1-517 勤：新日本製鉄(株)プラント事業部	☎(093)872-7008	FAX(093)872-6905
熊本	正会員	宮崎 浩三	農業	〒869-1102 熊本県菊池郡菊陽町大字原水1214-3 勤：九州建設コンサルタント(株)熊本支店	☎(096)370-2666	FAX(096)370-0737

☆九州技術士センター入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(上段：連絡先／下段：勤務先) 〈連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ〉	☎	FAX
北九州	正会員	磧 清和	建設	〒800-0244 北九州市小倉南区上貫3-11-10 勤：(株)三洋コンサルタント	☎(093)475-0226	FAX(093)511-0241
福岡	正会員	久保 央	建設	〒811-0212 福岡市東区美和台3-30-6 勤：アジアエンジニアリング(株)	☎(092)606-5567	FAX(092)553-2800
福岡	正会員	武本 英治	建設	〒814-0032 福岡市早良区小田部2-10-20 勤：アジアエンジニアリング(株)	☎(092)831-7577	FAX(092)553-2800
福岡	正会員	今泉 七郎	建設	〒811-2113 粕屋郡須恵町大字須恵538-17 勤：アジアエンジニアリング(株)	☎(092)934-2406	FAX(092)553-2800
中四国	正会員	長谷川信之	機械	〒751-0806 下関市一の宮町5-13-5 勤：長谷川技術士事務所	☎(0832)56-3519	FAX(0832)56-3519
福岡	正会員	御手洗泰文	建設	〒814-0012 福岡市早良区昭代3-12-13-401 勤：西日本技術開発(株)	☎(092)845-7808	FAX(092)781-2831

福岡	正会員	牛恒 徹	建設	〒811-3223 宗像郡福岡町光陽台2-14-16 勤：ライト工業(株)	☎(092)651-4331	☎(0940)43-3833 FAX(092)641-4199
福岡	正会員	幸 徹	建設	〒813-0001 福岡市東区唐の原2-11-4クレアール香住丘603号 勤：ライト工業(株)	☎(092)651-4331	☎(092)672-8095 FAX(092)651-4340
福岡	正会員	大賀 成元	建設	〒813-0044 福岡市東区千早2-12-9 勤：西技測量設計(株)	☎(092)712-1441	☎(092)681-6658 FAX(092)712-1492
北九州	準会員	佐々木未穂	応用理学	〒804-0093 北九州市戸畑区沢見1-7-5-201 勤：貝島興発(株)	☎(093)761-2935	☎(093)861-0737 FAX(093)771-1645

☆会員連絡先 (住所)および勤務先変更

(地区) (区分) (氏名) (部門) (変更)

福岡	正会員	吉村 岳丸	林業	勤：〒815-0084 福岡市南区市崎1-2-8-151 (株)杉田測量設計コンサルタント	☎(092)526-7937	FAX(092)526-7938
福岡	正会員	林 信雄	応用理学	連：〒816-0943 大野城市白木原1-15-15-1102		☎(092)586-3460
福岡	正会員	古賀 照久	環境	連：〒816-0087 福岡市博多区三筑1-9-5プレミール三筑303		
北九州	正会員	長崎 治夫	電気電子	勤：〒849-0916 佐賀市高木瀬東高木223-1 橋口電機(株)技術顧問	☎(0952)31-4297	FAX(0952)31-9504
北九州	正会員	浦島 親行	金属	勤：〒804-0813 北九州市八幡西区夕原町3-1 (有)浦島テクノス	☎(093)644-2297	FAX(093)622-8038
北九州	正会員	安心院貴顕	建設	勤：〒802-0831 北九州市小倉南区八重洲町11-8 (株)三高コンサルタント	☎(093)962-1615	FAX(093)962-0202
北九州	正会員	円生 敏明	建設	勤：〒820-0001 飯塚市大字鯉田405-33 日本航測(株)	☎(0948)24-6965	FAX(0948)24-0966
北九州	正会員	三浦 三郎	水道	勤：〒802-0023 北九州市小倉北区下富野1-6-21 (株)大平設計	☎(093)551-1413	FAX(093)551-9100
北九州	正会員	児玉 久	応用理学	勤：〒807-0866 北九州市八幡西区日吉台1-14-7 児玉技術士事務所		☎(093)691-1984
佐賀	正会員	蒲生 文生	建設	連：〒840-0017 佐賀市新郷本町19-21		☎(0952)29-0500
佐賀	正会員	宮副 一之	建設	勤：〒840-0017 佐賀市新郷本町24-13 (株)九州構造設計	☎(0952)29-0898	FAX(0952)29-2503
佐賀	正会員	楠田 直稔	農業	勤：〒849-0921 佐賀市高木瀬西6-10-1 (株)協和製作所	☎(0952)30-2161	FAX(0952)31-4031
佐賀	正会員	樋渡 常右	農業	勤：〒848-0028 伊万里市脇田町1407-3 (株)マエタ佐賀営業所	☎(0955)20-1680	FAX(0955)20-1678
長崎	正会員	松尾 稔	電気電子	勤：〒852-8127 長崎市大手1-21-13 松尾技術士事務所	☎(095)844-2219	FAX(095)844-2219
長崎	正会員	福田 光博	農業	勤：〒850-0842 長崎市新地町5-17 (株)上滝	☎(095)823-2378	FAX(095)827-2455
熊本	正会員	淵田 精三	建設	勤：〒862-0033 熊本市小峯2-6-26 水野建設コンサルタント(株)		☎(096)365-6565
熊本	正会員	吉尾 正人	農業	勤：〒862-0919 熊本市健軍町3101-16 (株)熊本建設コンサルタント	☎(096)367-4111	FAX(096)367-4911
熊本	正会員	森 弘光	建設	連：〒866-0051 八代市麦島東町4-8		☎(0965)32-4977
宮崎	正会員	井川 仁	建設	勤：〒880-0844 宮崎市柳丸町145-3 (株)弓場水工コンサルタント	☎(0985)28-9651	FAX(0985)23-5317
宮崎	正会員	河野 敏郎	建設	連：〒880-0052 宮崎市丸山2-115-1プレタメゾン丸山202号 勤：〒880-0804 宮崎市宮田町8-7第2光ビル301 (株)宮崎まちづくり計画	☎(0985)31-8086	FAX(0985)31-8087
宮崎	正会員	外山 眞也	情報工学	連：〒880-0953 宮崎市小松台東3-5-5 勤：〒880-0303 宮崎郡佐土原町大字東上那珂16500-2 宮崎県工業技術センター	☎(0985)74-4311	FAX(0985)74-4488
宮崎	正会員	中山 法親	農業	勤：〒880-2105 宮崎市大塚台西2-21-12 中山技術士事務所		☎(0985)48-1882
鹿児島	正会員	川内 貞三	建設	連：〒890-0003 鹿児島市伊敷町7331ブランヒルB202		☎(099)228-9259
長崎	正会員	木寺 亨	機械	連：〒852-8151 長崎市泉2-235トーカンマンション泉町505		
福岡	準会員	吉永 忠義	建設	勤：〒811-2405 粕屋郡粕屋町大字篠栗4896-1 総合緑化(株)九州営業所		☎(092)948-2258
宮崎	準会員	縄田 善三		連：〒885-0034 都城市菖蒲原町19-1-40 J T菖蒲 A P 2-243 勤：〒885-0015 都城市千町4836-15 日本たばこ産業(株)都城工場	☎(0986)26-3852	FAX(0986)25-9386
熊本	準会員	舌間 末博	情報工学	勤：〒869-0422 宇土市入地町110-2		

御協力いただいている 賛 助 会 員

〔福岡〕

(株)久栄総合コンサルタント
 日本航測(株)
 (株)建設環境研究所
 (株)唯設計事務所
 日本建設コンサルタント(株)九州支店
 中央開発(株)九州事業部
 (株)ダイヤコンサルタント西日本支社
 福岡支店
 日本工営(株)福岡支店
 昭和地下工業(株)
 第一復建(株)
 (株)松本組
 (株)エスケイエンジニアリング
 (株)東亜コンサルタント
 (株)福山コンサルタント
 (株)東京建設コンサルタント九州支店
 東亜建設技術(株)
 精巧測量(株)福岡支店
 東邦地下工機(株)
 大成ジオテック(株)
 末永コンサルタント(株)
 富洋設計(株)九州支社
 九州建設コンサルタント(株)福岡支店
 応用地質(株)九州支社
 日本海洋コンサルタント(株)
 九州事務所
 (株)サンコンサル
 芳野測量設計(株)
 (株)橋梁コンサルタント福岡支社
 (株)アイ・エヌ・エー九州支社
 (株)九州地質コンサルタント
 (株)タイヨー設計
 三井共同建設コンサルタント(株)
 九州支社
 日鉄鉦コンサルタント(株)九州支店
 (株)大建
 (株)エム・ケー・コンサルタント
 (株)エス・ピー・エンジニアリング
 (株)アジア建設コンサルタント
 新地研工業(株)
 (株)カミナガ
 (株)構造技術センター
 平和測量設計(株)
 基礎地盤コンサルタンツ(株)九州支社
 (株)高崎総合コンサルタント
 西日本コントラクト(株)

(株)マエダ九州支社
 西鉄シーイーコンサルタント(株)
 町田電気管理・技術士事務所
 日本地研(株)
 第一設計(株)
 九州環境技術研究所
 西日本技術開発(株)
 (株)富士ピーエス
 日本技術開発(株)

〔北九州〕

(株)吾水総合コンサルタント
 九和設計(株)
 (株)都市開発コンサルタント
 九州テクノリサーチ(株)
 第一復建(株)北九州事務所
 (株)松尾設計
 (株)酒見設計
 (株)太平設計
 冷牟田設計コンサルタント(株)
 山九(株)鉄鋼事業本部鉄鋼技術部
 (株)日鉄エレックス
 (株)安川電機

〔佐賀〕

(株)精工コンサルタント
 新九州測量設計(株)
 日本建設技術(株)
 (株)九州構造設計
 西日本総合コンサルタント(株)
 新栄地研(株)
 フジコンサルタント(株)
 九州技術開発(株)

〔長崎〕

大栄開発(株)
 (株)実光測量設計
 西日本菱重興産(株)
 大洋技研(株)
 (株)親和テクノ
 扇精光(株)
 西海地研(株)
 (有)メジャーコンサルタント

〔熊本〕

(株)九州開発エンジニアリング

〔大分〕

佐伯調査測量設計(株)
 松本技術コンサルタント(株)
 協同エンジニアリング(株)
 (株)日建コンサルタント

東亜コンサルタント(株)
 (株)テクノコンサルタント
 南海測量設計(株)
 九州特殊土木(株)
 大洋測量設計(株)
 九州建設コンサルタント(株)
 西日本コンサルタント(株)
 南武測量設計(株)
 東洋測量設計(株)
 九建設計(株)
 日進コンサルタント(株)

〔宮崎〕

(株)弓場水工コンサルタント
 (株)ケイディエム
 (株)国土地質調査事務所
 南日本総合コンサルタント(株)
 (株)宮崎産業開発
 (株)西田技術開発コンサルタント
 (株)共和コンサルタンツ
 (有)福島測量設計調査事務所
 九州工営(株)
 (有)久保測量設計コンサルタント
 正栄技術コンサルタント(株)
 (株)東九州コンサルタント
 (有)日豊測量設計事務所
 日測コンサルタント(株)
 (株)水理設計
 (株)ダイワコンサルタント
 (株)杉田測量設計コンサルタント
 (株)ジオセンターM
 (株)都南開発コンサルタント
 (株)アップス
 (有)カツキ技術士事務所
 (株)共同技術コンサルタント

〔鹿児島〕

朝日開発コンサルタンツ(株)
 小枚建設(株)
 (株)久永コンサルタント
 コーアツ工業(株)
 大協(株)
 親和技術コンサルタント(株)
 (株)中村測量設計
 (株)日峰測地
 (株)大紀造園設計事務所
 (株)建設技術コンサルタンツ
 (株)沖縄プランニング

「技術士」の英文名称について

技術士の英文名称は今まで明確な定めがなく、それぞれの活動の形に則して、Consulting Engineer や Professional Engineer が使われてきたが、最近顕著になってきた、専門職業人の国際間の移動の促進、NAFTA、EU、APECの経済圏で進行しつつあるエンジニア相互承認の動きのなかで、日本語と英語との表現を一致させ、海外の相当する資格との整合性を明確に示すことが重要になってきた。

このため日本技術士会本部の政策委員会では、今年10月に名称と意見集約プロセスの提案を採択し、

① Registered Professional Engineer

② Professional Engineer

の二つにつき、来年1月末までに各支部に会員の意見集約を依頼し、3月に決定することになっている。

なお、①は国際的に認知度の高い名称、②は今年6月に技術士審議会に提出、一般にも公開された技術者資格問題連絡協議会の提言名称である。

また、Consulting Engineer は、Professional Engineer という資格名と併せて職業名として使用するのが望ましいとされている。

九州支部としては、② Professional Engineer で集約することを支部の会員に提案したい。ご意見はいかがでしょうか。
(広報委員会)

会誌「技術士」最近の主要目次

平成11年9月号

- ・巻頭言 科学技術の時代における倫理「エコエティカ」確立に向けて共に進もう／佐藤純一
- ・加熱炉とバーナの不適合問題における技術士の役割／幸地生好
- ・次世代型ガス化溶融炉を見学して／松田重信
- ・要素技術から創造技術へ／土橋豊
- ・学生時代と海軍／市川英彦
- ・アメリカの好況と技術／工藤矩弘
- ・地方技術士の想い／勇秀忠

平成11年10月号

- ・巻頭言 広報委員会就任のご挨拶／湖上国雄
- ・ミニ特集〈地球環境—今日の課題〉
ダイオキシン類の化学とその毒性／小川和夫
環境ホルモン問題の現状／仲山伸次
モンスーン域の淡水湖開発と水環境／山田雅弘
改正省エネルギー法と企業の対応／荒野詰也
都市の緑の環境緩和効果／榎田晴美
- ・ミャンマーにおける技術士セミナー開催と視察について／堀内純夫
- ・技術士第1次試験の改善策／辻喜礦

平成11年11月号

- ・巻頭言 歴史を刻む者の責務／黒沢豊樹
- ・21世紀の情報社会と人材の育成／神山清英
- ・技術者の倫理問題を考える／本田尚士
- ・技術士補対策委員会からの提言／片岡章
- ・財団法人中日経済貿易発展基金会／鹿島幸太郎

- ・生物工学部門技術士の活動HOBIAの主題に／平井輝生
- ・本の始末、再利用について考える／大高俊昭

編集後記

1900年代最後の「技術士だより」を送ります。今から100年前には、所謂「2000年問題」といったことはなかったと思います。大袈裟に言えば、世の中がひっくり返るほどの問題を抱えて、新年を迎えようとしています。小渕総理も官邸に詰めて年を越すそうです。対応は済んだ、万全の対策と専らの報道ですが、本当に何事もないことを祈ります。

99年後半は、海外業務講演会、中国三峡ダム見学会、日韓技術士会議と、国際化の行事が重なりました。来年秋にはこの日韓技術士会議が九州支部担当で福岡で開かれます。われわれ「技術士」が、世界に雄飛する時が目の前に来ております。

どうぞ、よいお年をお迎えください。(完戸)

発行：(株)日本技術士会九州支部
九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4442

E-mail : engineer@joho-fukuoka.or.jp

九州支部ホームページ URL :

http : //www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer

センター : ☎/FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社